

橋梁技術発表会及び講演会

メインテーマ

これからの鋼橋に求められる技術

13:00 ~ 13:10

開会の辞 社団法人日本橋梁建設協会 会長 川田 忠樹

13:10 ~ 13:20

橋建協の講習会・講演会活動報告 企画委員会広報小委員会

第1部：技術発表会

13:20 ~ 14:05

1. 鋼橋の耐風性について

—道路橋耐風設計便覧の改訂のポイントと合理化橋梁の耐風安定性—

技術委員会設計小委員会

14:05 ~ 14:50

2. 交差点急速立体化施工法

—クイックブリッジ工法による急速立体化施工法の実施報告—

技術委員会架設小委員会

14:50 ~ 15:35

3. 鋼・コンクリート合成床版の実橋調査

—枝川ランプ橋の非破壊検査と秋田大橋の健全度調査—

技術委員会床版小委員会

15:35 ~ 15:50

休憩

第2部：特別講演会

15:50 ~ 16:50

鋼橋の長寿命化

九州工業大学大学院工学研究院建設社会工学系 教授 山口 栄輝



山口 栄輝 教授

16:50 ~ 16:55

閉会の辞

橋梁技術発表会実行委員会

<http://www.jasbc.or.jp/>

参加費無料
定員 200名
申込先着順

日 時 / 平成20年11月18日(火) 13:00 ~ 16:55

会 場 / 博多パークホテル 2F平成
〒812-0011 福岡市博多区博多駅前4-11-18
Tel. 092-451-1151

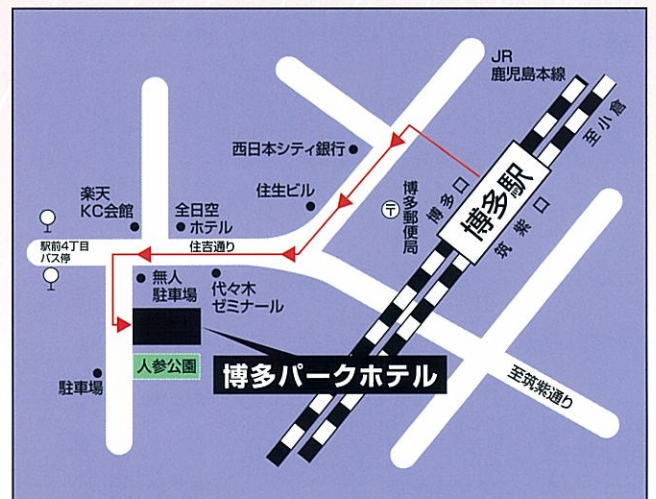
申込方法 / ①Eメール(URL) <http://www.jasbc.or.jp/>
の「技術発表会申し込み受付」まで(受付は10月上旬から)
②Fax (指定の用紙に記載) Fax. 092-531-0701

申込期限 / 平成20年11月4日(火)

懇親会 / 博多パークホテル2階「芙蓉」にて17時10分から開催します。
会費 1,000円
参加ご希望の方は、発表会当日受付にてお申し込みください。

主催・連絡先 / 社団法人 日本橋梁建設協会 九州事務所
〒810-0005 福岡市中央区清川1-7-12大戸ビル
Tel: 092-531-0701
※CPDS認定予定(継続学習制度)

※東京地区は10月15日(水)(特別講演講師:名古屋大学 山田教授)
大阪地区は10月23日(木)(特別講演講師:関西大学 白石教授、大阪工業大学 松井教授)
東北地区は11月7日(金)(特別講演講師:日本大学 五十畑教授)開催です。
申し込み等詳細はホームページでご確認願います。



●JR博多駅(博多口)より徒歩約6分
●福岡空港より地下鉄利用で約10分 車で約15分

九州地区 橋梁技術発表会概要

1. 鋼橋の耐風性について

—道路橋耐風設計便覧の改訂のポイントと合理化橋梁の耐風安定性—

合理化橋梁（少数主桁橋や細幅箱桁橋）はゴム支承の採用や横構等部材の省略により、従来形式にくらべて構造減衰・ねじれ振動数が小さくなっており、長支間（60 mを超える）の場合の耐風安定性が課題のひとつでした。設計小委員会では、合理化橋梁について二次元模型風洞試験による耐風性の評価や起振機を用いた振動試験による振動特性の検討を実施し、成果の一部は、16年ぶりに改訂された道路橋耐風設計便覧に反映されています。ここでは、道路橋耐風設計便覧の改訂のポイントとこれまで委員会で検討してきた合理化橋梁の耐風安定性について報告します。

2. 交差点急速立体化施工法

—クイックブリッジ工法による急速立体化施工法の実施報告—

小坂高架橋は、慢性的な渋滞が問題となっていた愛媛県松山市小坂交差点に建設された立体交差橋梁です。本工事では、工事にもなう交通規制によって生ずる二次渋滞などの周辺への影響を極力抑えるために、急速施工法（クイックブリッジ工法）が採用されました。

クイックブリッジ工法では、上部工と基礎工の同時施工、および重量移動台車（ドーリー）による一括移動架設を用いることで急速施工を実現しています。この工法の採用により、現場交通規制12.5ヶ月の短期間で工事を終えることができ、また交差点上の交通規制は一括移動架設時の1夜間のみとすることができました。在来工法に比べ約11ヶ月、急速施工法の標準施工より約3ヶ月の工期短縮が図られており、工事中の渋滞を極力抑えるという当初の目的を充分満足できる結果でした。

3. 鋼・コンクリート合成床版の実橋調査

—枝川ランプ橋の非破壊検査と秋田大橋の健全度調査—

実橋で使用されている合成床版の健全度を把握する目的で実施した点検・調査の結果を報告します。対象橋梁は2つで、はじめに供用後27年経過した首都高速道路枝川ランプ橋で各種非破壊検査および目視点検を実施した結果を紹介し、次に、秋田大橋が平成16年3月に撤去解体された際に、23年間供用された合成床版から切り出した供試体を用いて行った各種の破壊試験の結果について紹介します。

九州地区 特別講演会 講演者の紹介

山口 栄輝（九州工業大学大学院工学研究院建設社会工学系 教授）

—略歴—

1958年 京都府生まれ
1981年 東京大学工学部土木工学科卒業
1983年 アジア工科大学大学院構造工学施工部門修士課程修了
1987年 パデュー大学大学院工学研究課土木工学専攻博士課程修了
1987年 九州大学工学部助手
1990年 東京大学工学部講師
1992年 東京大学工学部助教授
1994年 九州工業大学工学部助教授
2004年 九州工業大学工学部建設社会工学科教授
2008年 九州工業大学大学院工学研究院建設社会工学研究系教授

委員会活動等

国土交通省九州地方整備局緊急災害対策派遣ドクター 日本道路協会橋梁委員会「道路橋示方書改訂スキームWG」委員 日本道路協会橋梁委員会鋼橋小委員会「部分安全係数法WG」委員 鉄道総合技術研究所「耐震設計標準に関する委員会」委員兼幹事 西日本高速道路株式会社九州支社技術コンソシアムアドバイザー委員 土木学会鋼構造委員会「鋼・合成構造物標準示方書小委員会」幹事長

講演テーマ

鋼橋の長寿命化

講演概要

新設橋梁の設計供用期間は100年が標準となってきた。既設橋梁についても、長寿命化が模索されている。こうした状況の下、橋の性能として耐久性が重要視され、土木学会鋼・合成構造標準示方書「設計編」などでは、要求性能のひとつに挙げられている。しかしながら、既設橋の中には性能が低下し、緊急の対応を要するものも多い。ここでは鋼橋の耐久性、さらに長寿命化について考える。

きりとり線

Fax番号 092-531-0701

平成20年度

橋梁技術発表会

〔九州地区〕

参加申込書

所 属	団体名	所属
氏 名	役職	氏名
郵便番号	□□□□-□□□□	
住 所	_____	
電話番号	() _____	FAX番号 () _____
メールアドレス	_____	
前回参加の有無	有	無